



デジまち研究会 第三回

2024年9月26日

目次

- 地域コミュニティDX推進事業について 5分
- 前回の振り返り（グラレコ共有） 5分
- まちのデジタル化をイメージする
 - 気づきの深堀（第2回振り返り） 5分
 - 新たな取り組みの進め方（第1回振り返り） 5分
 - デジタル化のシナリオを描く 60分
- 今後の予定 5分

地域コミュニティDX 推進事業について

福井市地域コミュニティDX推進事業について（R5～6年度）

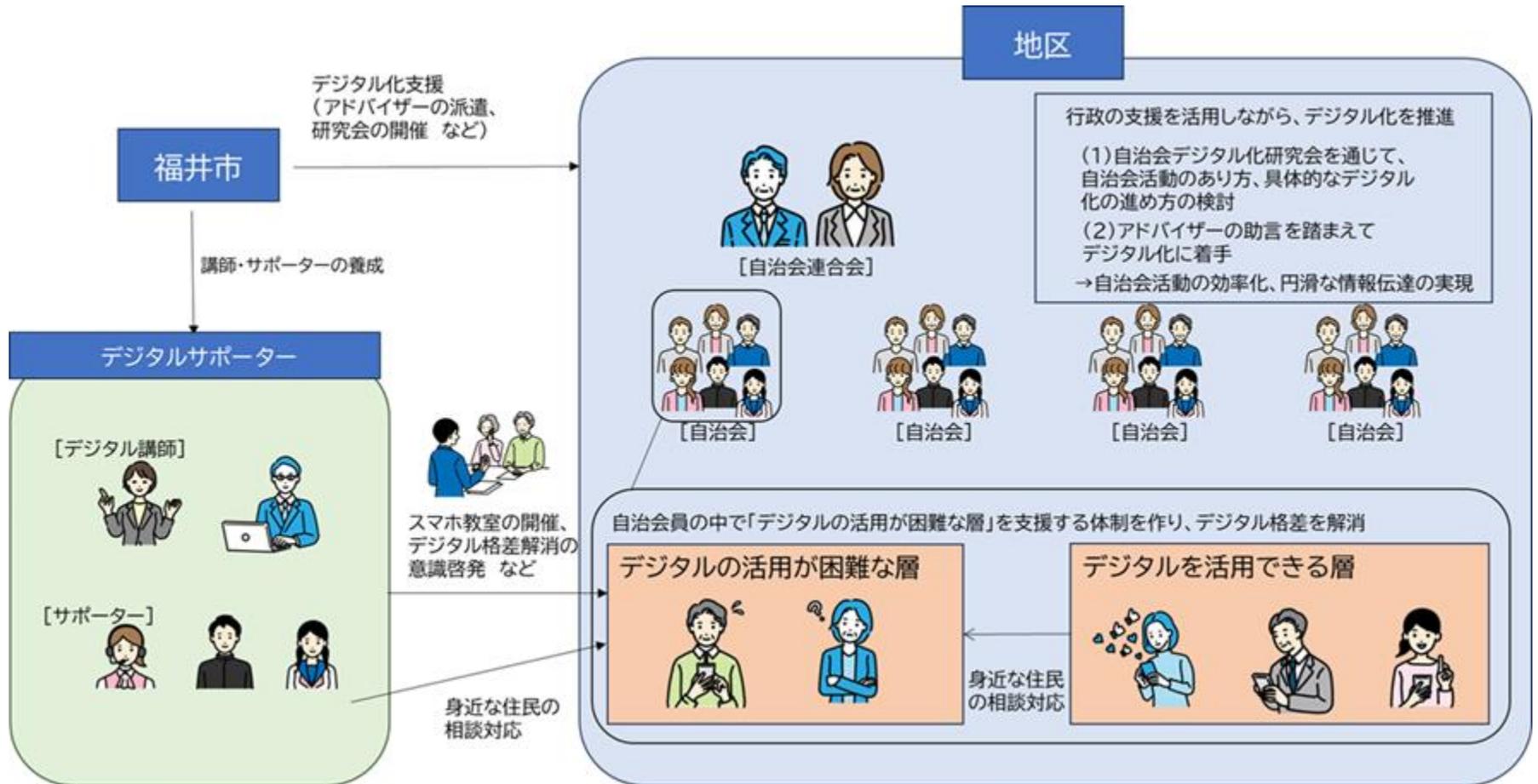
(1) デジタル機器の利活用能力の向上に向けた取組

- ・スマホ教室

(2) サポート体制の構築に向けた取組

- ・スマホ講師養成講座
- ・デジタルサポーター養成講座
- ・自治会のデジタル化に向けたアドバイザーの派遣
- ・デジタル化時代のまちづくりを考えるハンドブック(R5)
- ・まちのデジタル活用シンポジウム(R5)
- ・デジまち研究会(R6)

【参考】福井市地域コミュニティDX推進事業について（R6年度）



前回の振り返り

グラフィックレコーディング共有

第2回 デジまち石研究会 (事例紹介)

9/12 (木) 19:00 ~ Aossa 研修室 601AB

福井市

- ・市の配布物をHPに掲載
ダウンロード可能に
 - ・市公式LINEへ配信
市広報
各種お知らせ
- 受信設定で
(ほしいものだけ)届く

社南地区



[現状]

- 紙 → 電子化進む
まずは回覧物を進めよう
- ・月2回の配布を廃止
あてていた時間を他のことに
- ・伝達が速い・正確
- ・手元に残る 見返せる

新江守中自治会

3年前 ~
HPやLINEに力

- 紙配布 $\frac{265}{358}$ 世帯
75% 廃止!
- 紙 ... 仕分け → ブロック長 → 町長へ
約90世帯へ配布
- デジタル委員会
書類を電子化 → HPへ
配信 (はブロック長から)

★地域活動力の見える化

若者が興味
持たない...

HPへ活動力記録UP

- 魅力伝える
- 後継者育成
- 共通の話題生まれる

2023年は57件UP

オープンチャット

DX化...
どうやって進めたの?

自治会50周年を機に

- 変えていこう!
- 役員での話し合い
- 系総会にかける
- 役員決める
- 報西州決める

自治会全体で
取り組むのが

大事!!

殿下地区

まずは状況確認

保有率

- ・50~60代まではほぼ"
- ・70代も半分
- ・80代でも $\frac{1}{3}$
- ・90代は少ない

社会サービス全体が
デジタル化していく...

目標



使えない人
支えよう

全ての住民が何らかの形で
恩恵を受けること

取組み

- ① デジタルリテラシーの向上
- ② デジタルデバイドの解消
- ③ 持続的に取り組むための
仕組みづくり

地域の
情報発信・共有

公式

LINEの活用



災害が多いため情報を迅速に
課題... 現在は無料でできているが...

有料アカウントへの移行

現状... 4割の方がLINE加入

リテラシー向上のため...

- ・スマホ教室
- ・マイナンバー講座
- ・よろず相談

住民に
共有しながら

マゴスピーカー

- 個人向け防災スピーカー
今... 有線放送@公民館
今後移設の計画あり
- 本格稼働に変わるか...?

? どれだけ使える?

- ・カメラOK
- ・LINE・メールは(まちまち)
- ・SNSは(厳しい)...

第2回 デジまち研究会(質問タイム)

9/12(木) 19:00 ~ AOSSA 研修室 601AB

[6時班]

・自治会未加入の人は?

① 未加入の人の
↑情報がない...

② 未加入なし!

[5時班]

・公民館のHPとの連携?

① お互いリンク合っている

[3時班]

・デジタル導入の説得の仕方

① アナログ/デジタル 

⇒ 今までも進化してきた。

できない人を助けてつづ、
できる人に合わせよう

② 思い切りも大切、丁寧さも大切。

[4時班]

・デジタル回覧板とHPの住み分け?

① LINEは通知で迅速に
→ HPで内容を蓄積

・デジタル化の経費? ↑ 立ち上げ

② 専門業者(50万)

自治会でも更新できる

保守はそこまで高くない

③ LINE無料アカウント... 今のところ0円

④ ①かは変わる。

今はじめないと、

とととと遅れを取る!

Q どうしても紙を知らせたいものは?

臨機応変に。

全てが紙ではない。

[2時班]

・プライバシー... HPの写真
許可取りはどのようにする?

① 全ての人に必ず許可取り

名前は消している

データはしっかり保管

[1時班]

① ペーパーレス化への流れ

最初は紙も電子も

→自治会長に聞いてもらった

→『いらない』の回答 → 電子化

② スマホ教室の頻度、交成果は?

公民館の仕組みを使用

高橋さんは先生として

③ わからないことはどう解決?

LINEグループがある



質問

ここで聞かれることも

まちのデジタル化を イメージする

気づきの深堀



第2回振り返り

主な意見

マネできそうなこと

【電子回覧板】

- ・必要な情報をデータ化して、公式LINEにアップする
- ・オープンチャット（LINE）による町内毎のコミュニティ構築
- ・各町内へ公民館LINEによる配布
- ・地区でLINEの活用などデジタル化を進めることに賛同してもらう
- ・連絡体制の強化と活用率向上
- ・回覧、配布物を無くす、災害、防災情報を瞬時に伝える
- ・自治会連合会でのグループLINE
- ・回覧・配布物のデータを集められないか各団体に問う

【スマホ教室】

- ・もっと便利な機能を紹介
- ・よろず相談でスマホアレルギーをなくす
- ・自主的な学びの場

【その他】

- ・デジタル化推進について話し合い
- ・問題提起
- ・市政広報は市のHPを見てもらい、配布数を減らす
- ・HP作成、電子掲示板の設置
- ・小さな単位で取り組む

マネしたいけど 難しそうなこと、その理由

- ・SNSの活用、電子回覧板とSNSの連携
- ・HPの作成（費用負担、人材確保）
- ・スムーズな更新作業が難しい
- ・回覧、配布物を無くしたいが、どうしたら説得できるか
- ・予算の出所
- ・地区の自治会数が多い
- ・公民館から配布される広報、回覧書類のデータ化
- ・デジタル委員会等を立ち上げたいが、世帯数が少なく、一世帯あたりの負担が多くなりそう。担当がボランティアでは継続困難。
- ・Wi-Fiが無いとLINEが使えない人がいる
- ・70歳以上の高齢者が大半
- ・デジタルに詳しい人材がない

何があればできそう？

- ・デジタルに詳しい人が数名ほしい
- ・デジタルに詳しい人材の育成、スキルアップ
- ・リテラシー向上教室や勉強会を休日に開催
- ・自治会でのスマホ講習会などのバックアップ
- ・先進地区への視察、講師依頼
- ・市の補助金（継続・簡素化が望ましい）
- ・デジタル化の重要性の認識
- ・公民館からのデジタルデータ提供
- ・伴走支援
- ・委員会の立ち上げ

新たな取り組み の進め方

第1回振り返り

新たな取り組みの進め方



新たな取り組みの進め方

準備

実施

改善

継続検討・
定着

0

問題の把握

1

導入ツールの検討

2

導入に向けた体制の構築



運用開始

3

運用開始後の検討

4

今後に向けて

5

問題の把握

Section.01

「デジタル」を活かすために、

まちの未来図を描く

Section.02

描いた未来図に近づくために、

体制をととのえる

Section.03

体制を活かして、

取り組みを形にする

Section.04

形にした取り組みを継続させて、

新しい日常をつくる

電子回覧板導入の流れ

第3回

第2回

0 問題の把握

- まちの未来図を描く
- まちの問題を把握
- 解決策の検討/**事例研究**

1 導入ツールの検討

- 役員体制や地域の現状・課題を確認
- 町内会に合った導入ツールの検討

2 導入に向けた体制の構築

- 体制の構築
 - ・運用イメージと体制の検討
 - ・会員への周知方法の検討
 - ・紙媒体との併用の検討

- 運用準備
 - ・運用者や役員の研修会
 - ・ツールの試験運用開始
 - ・試験運用結果の検証、導入の決定



★ 運用開始

- 運用開始の周知（チラシ）
- 講習会の実施

3 運用開始後の検討

- 利用者の拡大、促進
 - ・再周知の実施
 - ・会員向け登録研修会の実施検討

4 今後に向けて

- 会員への利用状況アンケートの実施
- 継続していくための体制づくり
 - ・運用者用のマニュアル作成
 - ・サポーター（協力員）などの募集

5 改善活動

- アンケート等の結果を受けて改善
 - ・機能改善
- 定着に向けた活動
 - ・講習会、デジタル勉強会開催

デジタル化の シナリオを描く

デジタル化のシナリオを描く

- 目指す地域の姿
- 使ってみたいツール
- 目指す姿に向かうためのアクション（行動）

班：

氏名：



使ってみたいツール

Empty rectangular box for tool selection.

目指す地域の姿

Empty rectangular box for regional vision.

Step 1: L-shaped teal graphic element.

アクション 1

Step 2: L-shaped teal graphic element.

アクション 2

Step 3: L-shaped teal graphic element.

アクション 3

班：

氏名：



目指す地域の姿

1

使ってみたいツール

2

アクション3

アクション2

アクション1

3
アクション(行動)

班：

氏名：



使ってみたいツール

目指す地域の姿

1



災害時に素早く情報が伝わる
安全なまち

アクション3

目指す地域の姿の例

- 会長作業の負担が少なく、持続可能な町内会
- 年齢に関係なく、多くの人が町内会活動に参加するまち
- コミュニケーションが活発なまち

アクション2

アクション1

班：

氏名：

素早く情報共有
できるツールを
使おう



2

使ってみたいツール

LINE または
オープンチャット

目指す地域の姿

災害時に素早く情報が伝わる
安全なまち

アクション3

アクション2

アクション1

班：

氏名：



目指す地域の姿

災害時に素早く情報が伝わる
安全なまち

使ってみたいツール

LINE または
LINEオープンチャット

みんなが同じ
ツールを使える
状態にしよう

アクション3

LINE,オープンチャット勉強会開催

自分、仲間、自治会役員

- ◆ 欲しいサポート
勉強会開催、勉強会講師育成

アクション2

役員会でツール導入の合意をとる

自分、仲間

- ◆ 欲しいサポート
 - ・ 計画作成、役員会での説明支援
(アドバイザー派遣?)
 - ・ 実践地域の人が、デジタル化のススメ
を話しに来てくれる

アクション1

住民への声かけ、アンケート
、協力者の発掘

自分

3

班：

氏名：



目指す地域の姿

災害時に素早く情報が伝わる
安全なまち

使ってみたいツール

LINE または
LINEオープンチャット

アクション0

LINEとLINEオープンチャットの違い
を知る（調べる、町内で聞く）

自分

- ◆ 欲しいサポート
デジタルサポーター

アクション2

役員会でツール導入の合意をとる

自分、仲間

- ◆ 欲しいサポート
 - ・ 計画作成、役員会での説明支援
(アドバイザー派遣?)
 - ・ 実践地域の人、デジタル化のススメ
を話しに来てくれる

アクション3

LINE、オープンチャット勉強会開催

自分、仲間、自治会役員

- ◆ 欲しいサポート
勉強会開催、勉強会講師育成

アクション4

お試し利用開始

自分、仲間、自治会役員、住民

- ◆ 欲しいサポート
困ったときの相談先
(デジタルサポーター?)

アクション1

住民への声かけ、アンケート
、協力者の発掘

自分

3

個人ワーク 15分

- 目指す地域の姿
- 使ってみたいツール
- 目指す姿に向かうためのアクション（行動）

「今年中にやるぞ」という アクションに マークを付けてください

ル

姿

報が伝わる

アクション0



LINEとLINEオープンチャットの違い
を知る（調べる、町内で聞く）

自分

- ◆ 欲しいサポート
デジタルサポーター

アクション1



住民への声かけ、アンケート
、協力者の発掘

自分

アクション2

役員会でツール導入の合意をとる

自分、仲間

- ◆ 欲しいサポート
 - ・ 計画作成、役員会での説明支援
(アドバイザー派遣?)
 - ・ 実践地域の人、デジタル化のススメ
を話しに来てくれる

アクション3

LINE,オープンチャット勉強会開催

自分、仲間、自治会役員

- ◆ 欲しいサポート
勉強会開催、勉強会講師育成

アクション4

お試し利用開始

自分、仲間、自治会役員、住民

- ◆ 欲しいサポート
困ったときの相談先
(デジタルサポーター?)

チーム内共有 15分

- 目指す地域の姿
- 使ってみたいツール
- 目指す姿に向かうためのアクション（行動）

全体共有 各チーム（2分）

- 目指す地域の姿
- 使ってみたいツール
- 目指す姿に向かうためのアクション（行動）

今後の予定

今後の予定

1.スマホ講師養成講座

2.デジサポ養成講座

日時：11月下旬頃から全3回（予定）

内容：デジタル関係の小さな困りごとを抱える方等に
寄り添うための素養を身につけるための講座

3.スマホ教室

日時：12月上旬頃から計3回（予定）

内容：まちなか（福井駅周辺）を舞台に生活に根ざした
デジタル技術の活用を楽しみながら学ぶ講座



お疲れさまでした

「デジタル」を活かすために、

まちの未来図を描く

私たちの本当の
「願い」はなんだろう？

暮らしにデジタルを取り入れることは、まちの人々がより幸せで充実した生活を送るための手段のひとつではありますが、それ自体が目的ではありません。

デジタルの導入は前提ではなく、あくまでも結論。

まち全体を見渡し、言葉を交わし合ったうえで、自分たちが本当に見たいのはどんな未来なのかを明確にしていくことがまず何より大切なことです。



本当に必要な
もの・ことを考えよう。

まちに暮らす一人ひとりの「願い」を集め、未来図を描き、その実現のためにデジタルが必要だと思えたら、存分に活用していきましょう。

このとき、多くの選択肢があらわれてくることになると思いますが、見たい未来の姿に沿って優先順位をつけながら、必要な取り組みを検討していくことが大切です。

まち全体の年代構成や社会サービスの普及状況によっては、世代別にアプローチの順番やタイミングを変えていくことも十分に考えられます。数年後の未来を見据え、段階的にアクションを準備していくことも大切な視点です。